

～大手町・丸の内・有楽町におけるエリア防災の取り組み～

被災状況や負傷者搬送を俯瞰する「災害ダッシュボード 2.0」を活用した実証実験実施

- ① 固定カメラに加え、移動型カメラで、エリア被災状況や帰宅困難者受入状況を屋内まで LIVE 映像で俯瞰
- ② 屋内位置測位技術で、負傷者搬送の状況や救護要員・負傷者（トリアージ後の状態）の状況を俯瞰

三菱地所株式会社は、大丸有（大手町・丸の内・有楽町）エリアにおける防災の取り組みとして、災害時の状況俯瞰、負傷者搬送対応等に活用するため、昨年3月に発表した「災害ダッシュボード」（プラットフォーム）の機能をより強化した「災害ダッシュボード 2.0」の実証実験を、1月23日（水）に千代田区・鉄道各社・バス事業者・ビル事業者等と連携して実施しました。

【災害時の課題とシナリオ】

大地震による災害時に負傷者が鉄道施設内・帰宅困難者受入施設に発生した場合、医療機関に搬送できず、トリアージ（重症度判定）もできない状態で滞留することを課題として想定しています。当社は、災害時医療連携協定を締結している大手町の聖路加メディロカスへ負傷者搬送する訓練を毎年行っておりますが、今般エリア循環バス「丸の内シャトル」（日の丸自動車興業）による負傷者輸送のほか、鉄道事業者も加えた実証実験を行いました。負傷者輸送を実現するには、負傷者・医師・看護師・災害対策要員等の状況を把握することが重要であるため、負傷者等の位置情報やトリアージ後の状態を情報俯瞰することの効果検証も行いました。

【「災害ダッシュボード 2.0」のポイント】

(1) 駅・診療施設・災害対策本部等の LIVE 映像を提供

東京駅・有楽町駅・聖路加メディロカス等を俯瞰する固定カメラに加えて、新丸ビル警備員、セグウェイに乗車する丸の内仲通り警備員、丸の内シャトルのような移動体からの LIVE 映像と位置情報を、千代田区・鉄道事業者・ビル事業者が WEB 上で俯瞰。尚、WEB の屋内電子地図は国交省・高精度測位社会プロジェクト*が公開している東京駅周辺の屋内電子地図を活用。

(2) 周辺エリアの状況をワンストップで提供

テレビ・ラジオからの広域情報以外に、周辺エリア情報が必要となるため、災害対策に取り組む千代田区と各事業者が、可能な範囲で周辺エリアの LIVE 映像やメッセージ等の情報を共有し、更なる丸の内エリアでの災害対策活動を支援する仕組み作りを実証。

(3) 電子トリアージタグによる負傷者識別と位置の把握

災害時に負傷者等の位置がわかることの有用性を検証するため、スマートフォン及び専用アプリを用いて、負傷者の発生とトリアージ後の状態を電子地図上で俯瞰する仕組みとし、丸の内シャトルの負傷者搬送の様子を俯瞰し、負傷者を医師のもとへ搬送することに役立てる実証を実施。



「災害ダッシュボード 2.0」画面イメージ

【実証実験の概要】

- 日 時：2019年1月23日（水）10:00～11:30
 - 実施場所：東京都千代田区丸の内二丁目4番1号
丸の内ビルディング7F 丸ビル放送センター前（三菱地所 災害対策本部（想定））
 - 実施内容：① 10:00～全体の概要説明 @丸の内ビルディング7F
② 10:10～「災害ダッシュボード2.0」デモンストレーション
WEB画面を通じて、千代田区災害対策本部、駅周辺・道路・仮救護所等の状況を把握。
負傷者の発生、搬送、トリアージによる重症度判定をWEB上で俯瞰。
 - 参加者：千代田区、三菱地所、東日本旅客鉄道、東海旅客鉄道、東京地下鉄、東京都交通局、日の丸自動車興業、大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会
聖路加国際病院・聖路加メディロカス、森トラスト、サンケイビル、読売新聞東京本社、他
- ※本実証実験は、国土交通省国土政策局国土情報課「高精度測位社会プロジェクト」の共同実証実験です。

【「災害ダッシュボード2.0」の概要】

- 利用対象想定：災害対策を担う官（千代田区）・民（鉄道事業者・ビル事業者など）
- 仕組み：クラウド型の情報共有（アイ・ピー・エル社製システム）
- 大丸有周辺 LIVE 映像と負傷者等位置情報の収集アプリ
（高精度測位社会プロジェクトの屋内電子地図、スマートフォンによる屋内位置測位を含む）
- SNS でのメッセージ共有（利用対象者限定）
- WEB 画面でワンストップ（Twitter のオープン情報等の収集含む）



- 俯瞰は3タイプ
ビル内、駅周辺、大丸有
- 屋内外の電子地図とライブ情報のページを展開
・移動警備 LIVE
・巡回バス LIVE
・位置情報
負傷者(トリアージ)
警備員
災害対策要員
医師
看護師 など
- 固定カメラ
千代田区災害対策本部
東京駅、有楽町駅
聖路加メディロカス
- 限定 SNS
メッセージ共有
(デモレベル)
- 公式 Twitter の収集
首相官邸、内閣府
東京都、千代田区
NHK、東京メトロ
東京都交通局、など

* 「高精度測位社会プロジェクト」とは：国交省による、2020年東京オリパラに向けた屋内電子地図や屋内測位環境等の空間情報インフラの整備・活用の推進プロジェクト（2015年から）。社会実証を通じてサービスの見える化を図るとともに、空間情報インフラを効率的・効果的に整備する手法や継続的に維持・更新する体制（モデル）の検討等を行い、民間事業者等による多様なサービスが生まれやすい環境づくりを推進。

当社は、大丸有エリアにおいて、丸の内ビルや新丸の内ビルをはじめ現在15棟の建物で千代田区と帰宅困難者受入施設の協定を締結しております。昨年度の事業者ヒアリングや実証実験から得られた災害時の負傷者搬送等の社会課題等に対して、またエリア就業者や来街者に向けた情報発信についても、今後検討をすることで、更なる大丸有エリアの災害対策強靱化を推進してまいります。